

## 【学生フォーラム】

### 地域貢献活動「やはぎ飛鳥まつり in 北野廃寺」に

### おける飛鳥時代衣装の再現制作

愛知学泉短期大学 TEAM YAMAMOTO

朝倉美桜 齋藤彩音 中嶋佳菜 中嶋真菜

#### 【要 旨】

平成 29 年に「やはぎ・飛鳥まつり in 北野廃寺 実行委員会」が発足し、平成 30 年 9 月 16 日に「やはぎ・飛鳥まつり in 北野廃寺 前年祭」が、国指定の史跡であり西三河地区における最古の寺院跡・北野廃寺で開催されました。昨年の前年祭を経て、令和元年 9 月 15 日に記念すべき第 1 回目が、同会場で開催されました。

私たち山本ゼミは前年祭に引き続きゼミの専門性を活かし、祭りに着用する飛鳥時代中期の衣装を資料に基づき制作し、ボランティアとして地域活性化に貢献させていただきました。

#### 1. 飛鳥時代の歴史と衣装について

私たちは最初に行ったことは、制作に対する意識を高めるために、古代・飛鳥時代の歴史と衣装について調べることでした。現在の奈良県高市群明日香村付近に相当する「飛鳥」の地に宮都が置かれていた 592 年から 710 年の 118 年間を飛鳥時代といいます。その時代の中で、衣装は大きく 3 種類ほどに分類されています。大陸との交流が盛んに行われた飛鳥時代の服装の形状は、朝鮮半島の影響を多分に受けつつも日本独自のものが創案されたものと云えます。飛鳥時代の服装は、昭和 47 年 3 月に奈良県高市群明日香村に存在する高松塚古墳の発掘によって解明されました。

#### 2. 制作した衣装「天武・持統朝文官朝服、女官朝服」について

私たちは、天武天皇 13 年から持統天皇初め頃に着用していたとされている、天武・持統朝文官朝服、女官朝服を男女ペアで 4 人分、合計 16 着の制作をしました。

袍(ほう)、內衣(ないい)、欄の襷(ひだ)、裳(も)、下裙(したも)の襷のように多くのパーツで構成されています。

女官朝服も男性のものと同じように左前にして着用します。男女共に飛鳥時代の衣装は多くのパーツで構成されています。着法はいわゆる左衽(さじん)で右の身が左の身にかぶさる形式になっています。上衣(うわぎ)の下には袖幅の長く、身丈のやや長い下着が重ねられ、これには襷のある欄がついています。

#### 3. 制作過程

今年の第一回やはぎ・飛鳥まつりでは、飛鳥時代中期の天武・持統朝文官朝服を制作することが決定しました。

私たちは参考資料をもとに生地の特約商社に行き、多くの生地の中から飛鳥時代にふさわしい生地を購入しました。また、山本豊先生が香港でシルクの生地を購入してきました。

8月末から制作が始まりました。資料からみる飛鳥時代中期の衣装を参考に、立体裁断をし、実物の衣装を仮制作した後、型紙、裁断、縫製まで、全員で役割分担をし、制作に取り組みました。

#### 4. 「第一回やはぎ・飛鳥まつり in 北野廃寺」当日の様子

当日は多くの方にご来場いただき、衣装を披露できました。そして制作した衣装は多くの方が評価してくださり、写真撮影も頼まれました。「すごいね、きれいだね」など、お褒めの言葉を実際に聞き、制作に携われて本当によかったと思いました。(写真1, 2)

また、出店したワークショップでは、デコミラーの制作を楽しんでいただきました。店頭には並ぶまゆ人形も、多くお客様が手に取り、購入してくださいました。

やはぎ・飛鳥まつりでの地域貢献・ボランティア活動を通して、多くの方々との繋がりを持ってた経験から、地域の活性化に貢献できることの素晴らしさを実感しました。

#### 引用文献

- 「岡崎の歴史物語」 著作者：岩月 栄治
- 「日本の女帝の物語—あまりにも現代的な古代の六人の女帝達」 著作者：橋本 治
- 「遷都 1300年人物で読む 平城京の歴史 奈良の都を作った主役・脇役・悪役」 著作者：河合 敦
- 「ふるさとの文化遺産 郷土資料事典【23】愛知県」 発行人：大迫 忍
- 「図説 岡崎・額田の歴史 岡崎市・額田群(額田町・幸田町) 上巻」 監修：新行 紀一
- 「矢作町誌」 著作権者：新行 紀一
- 「新編 岡崎市史 史料 古代 中世 6」 発行：新編岡崎市史編さん委員会
- 「岡崎市文化財図録 第一集」 編集兼発行：岡崎市教育委員会
- 「北野廃寺 愛知県岡崎市 国指定史跡」 編集：岡崎市教育委員会
- 「史跡北野廃寺跡の発掘と意義」 編集：岡崎市教育委員会
- 「岡崎・歴史と文化財めぐり」 編集：岩月 栄治

研究協力 岡崎歴史探究班 坂本純二様、三田村千春様

#### 【謝 辞】

皆様の御指導のおかげで、研究の成果を発表することができました。壇上に立って発表したことで私たちは自信をつけるとともに、研究に対する理解を深めることができました。また、市内大学の学生生活動の連携を深める良い機会となりました。深く御礼申し上げます。



写真1



写真2